

講義名	19-教養特講（読書力）/15-読書力			授業形態	
担当教員	藤原 喜美子	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

### 主題と概要

この講義の目的は、読書を通して本に慣れ親しみ、その本の要点を読み解く力を養うことにある。書籍からは様々な情報が私達に発信され、一冊の本には著者の色々な思いが込められている。そこで、教科書や課題図書を超えて、そこに記されている内容の中から、時間ごとにテーマを選び、選んだテーマの内容を話し合いながら講義を進める。

講義では、教科書や課題図書を皆で読み、「読む力」を養う練習を行う。また、そこから読み取れた事柄や自分の感想を文章にまとめ、「書く力」を養う。さらに、受講生同士の会話の時間を作り、「話す力」や「聞く力」を養う練習を行うことがある。このように、「読む」「書く」「話す」「聞く」ことを通して、「文章を読む」ということに対する読解力や向学心を育てていきたい。

### 到達目標

学生が、教科書や課題図書を読むことで本に慣れ親しみ、自身が興味のあるテーマを本の中から見つけ、興味を持った事柄について自分の感想や考えを述べるようになる。

### 提出課題

1. 講義では、毎回、小レポート（感想文や授業内容の確認）を提出してもらう。小レポートの課題は、講義ごとに伝える。
2. 学期末には、レポート試験を実施する。学期末のレポート課題の詳細は、別途、12月前半に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の講義に書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の授業などで、読書に関する考え方として紹介する。

### 評価の基準

毎回の講義における小レポート（感想文や授業内容の確認15分、60点）、学期末のレポート試験（40点）を総合して評価する。  
評価基準は、第1回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

### 履修にあたっての注意・助言他

1. 【重要】第1回の講義から、教科書を使用する。  
そのため、教科書は、教科書購入期間に必ず購入し、第1回の授業に必ず持参すること。  
教科書は、藤原孝「読み上手 書き上手」（ちくまプリマー新書076、筑摩書房、2008年2月発行、800円＋税）を使用する。
2. 教科書の他に、「図書館に所蔵されている課題図書（文庫本または新書）」を利用する。  
自時間の「課題図書の書名」は、第1回の講義の時、課題図書の書名を書いた用紙を配付し、説明する。  
また、毎回の授業の時にも次週の課題図書の書名を紹介する。
3. 事前に教科書を読み、予習を必ずしておくこと。  
教科書を読む時は、まず目次を見て、自分が興味のある項目から読んでもらいたい。
4. 本に慣れ親しみ、積極的に読書する習慣を鍛えてもらいたい。
5. 教室で「対面授業」を実施させていただく。授業の進め方は、後期の第1回の授業で説明する。

教科書	『読み上手 書き上手』（ちくまプリマー新書076）	藤原孝	筑摩書房	800	9784480687784
-----	---------------------------	-----	------	-----	---------------

### 参考図書

なし。					
-----	--	--	--	--	--

その他	<プリント資料> プリント資料は、必要に応じて配布する。 <参考文献> 参考文献は、講義中に適宜紹介する。
-----	--

### 授業計画

1. 「読書力」とは読書に慣れ親しむということ
2. 読書を考える言葉を知る
3. 読書を考える伝える力を養う
4. 読書を考える記録と記憶の技術
5. 読書を考える読む技術
6. 読書に親しむ
7. 読書に親しむ民俗学への招待(1)
8. 読書に親しむ民俗学への招待(2)
9. 読書に親しむ民俗学への招待(3)
10. 読書に親しむ日本文化のルーツを探す(1)
11. 内容を理解する日本文化のルーツを探す(2)
12. 内容を理解する地域の特性
13. 内容を理解する日本の生業
14. 内容を理解する人間社会と自然のバランス
15. まとめ読書を習慣化することの意味

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習  
次回の講義範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、各自、教科書を読んでおく。また、大学の図書館に所蔵されている課題図書について、登壇までに興味のある項目を1つ進んで読む（約2時間）。  
復習  
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる小レポートや感想文を記入する。また、各自で、その日の講義の要点等を確認する（約2時間）。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教養特講科目は、生涯を通じて学ぶにあたっての基礎を築き、社会経済環境の変化に応じた教養を養う科目群である。この科目では、毎回の読書を通して本に慣れ親しみ、各自が興味のあるテーマを本の中から見つけ、興味を持った事柄について自分の考えを相手に伝える力を身につける。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義では、毎回の前半は教科書等を用いた講義の形式で進める。また、受講生の会話の時間を設ける。毎回の後半は、その日の講義のテーマや登壇のテーマの内容について、各自でレポートを作成する。

### 実務経験の有無及び活用

課題図書の中には、日本の歴史や文化に関わる書籍が含まれている。特にそのようなテーマでは、民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務などの実務経験を活用し、日本の地域の特色などを紹介し、授業を行う。

### 備考

この講義は、教科書や大学の図書館に所蔵されている課題図書を利用して読書をする以外に、教室で「受講生同士が会話をする」機会を設ける時間がある。  
一冊の本には、著者の色々な思いが詰まっている。教科書や課題図書を読む時は、まず各自が興味のある事柄を探してもらいたい。また、教科書には、本を読む時のコツが多く記されているので、自分が実践しやすいものを探してもらいたい。